

別海町にてムセンスゲ *Carex livida* を確認

釧路市 加藤 ゆき恵¹

宮舞町湿原を大切に思う会

はじめに

ムセンスゲ *Carex livida* (Wahlenb.) Willd. はカヤツリグサ科の多年生草本で、北欧・北米を中心に分布する北方系の植物である (Hultén 1968)。北海道本島では大雪山 (秋山 1935)、猿払川湿原 (小林 1987)、知床半島 (高橋・岩崎 2007) での生育が知られていたが、2019年に根室市の湿原で発見され (佐藤 2020)、その後根室市内の別の湿原でも生育を確認した。2021年に別海町の湿原でムセンスゲの生育を確認したため、ここに報告する。

生育地概況と発見の経緯

今回ムセンスゲが見つかったのは野付郡別海町の市街地に隣接する残存湿地で (図1)、宮舞町湿原と名付けられた。西別川支流の氾濫原に形成された湿地で、周辺の農地化・市街地化や明渠掘削により湿原面積は減少しているが、樹林に囲まれて湿原環境が残されている。

2021年7月に本会会員の齋藤央氏が現

地を踏査し、「ムセンスゲらしきスゲがあった」という連絡をいただいた。私有地のため教育委員会に調整していただき8月19日に現地調査し、ムセンスゲが生育していることを確認した (図2)。ムセンスゲは花茎が残りにくく、8月の時点では果胞を確認できなかったが、葉の色と形態、根元まで白いことから、よく似るヤチスゲ、イトナルコスゲと区別できた。

植物相・植生と微地形の様子

現地調査はW字形をした湿原域のうち東側を中心に行った。湿原全体はヌマガヤを中心とする中間湿原で、ところどころマット状にイボミズゴケが広がっていた。道東の湿原でみられるチャミズゴケブルテは見当たらず、スギゴケを中心とするブルテが1つだけあった。木本 (矮小低木を除く) は、ハンノキの低木とノリウツギが所々で見られ、周辺の林地から侵入したミズナラとカラマツの低木があった。

ムセンスゲは浅いシュレンケの周辺に生育し、ミカヅキグサ、ホロムイソウ、ヤチスゲ、コタヌキモ、ヤチヤナギ等と一緒に見られた。シュレンケは幅が狭く、低いブルテと浅いシュレンケの凹凸が連続していた。根室を除く北海道内のムセンスゲ自生地では、ケルミーシュレンケ複合体状の微地形が確認されている (加藤ほか 2011、Kato and Fujita 2011、加藤・富士田 2015)。本湿原において、目視では明瞭なケルミーシュレンケ複合体は確認できなかったが、



図1 ムセンスゲ生育地 (別海宮舞町湿原: 白丸で示した部分)。国土地理院撮影の空中写真 (2006-HO200610X-C3-21) を加工して作成

シュレンケとブルテの比高差、シュレンケ周辺の植生は猿払川湿原のムセンズグ生育地に似ているように見えた。9月半ばに植物社会学的植生調査を試みたが、植生調査を行うには時期が遅く、群落区分や他の湿原と比較可能な定量的・定性的なデータは得られなかった。2022年以降に改めて植物相・植生調査と立地環境調査を行う予定である。

宮舞町湿原の状況

宮舞町湿原は私有地で、その一部が所有者によって埋め立てられる計画が持ち上がっている。ムセンズグ以外にも希少植物が生育することから、別海町民を中心として「宮舞町湿原を大切に思う会」が発足し、講演会や署名活動などを行っている。また、町の文化財指定も視野に入れた動きがある(2021年11月末時点での状況)。

謝辞

新篠津ツルコケモモを守る会の齋藤央氏には調査のきっかけをいただきました。調査にあたり別海町教育委員会の戸田博史学芸員、別海町在住の金澤裕司氏にお世話になりました。記して感謝いたします。

(1 釧路市立博物館)

引用文献

- 秋山茂雄 . 1935. 大雪山産スゲ属植物 . Biogeographica 1:49-51.
- Hultén, E. 1968. Flora of Alaska and neighboring territories – a manual of the vascular plants. Stanford University Press, Stanford.
- Kato, Y. and Fujita, H. 2012. Vegetation and

microtopography of *Carex livida*-growing mires near Lake Rausu, Shiretoko Peninsula, Eastern Hokkaido, Japan. Vegetation Science 28: 65-82.

- 加藤ゆき恵・富士田裕子 . 2015. 大雪山高根ヶ原南部における遺存種ムセンズグが生育する湿原の植生と微地形 . 植生学会誌 32:17-35.
- 加藤ゆき恵・富士田裕子・井上京 . 2011. 北海道北部猿払川中流域における遺存種ムセンズグが生育する湿原の植生と微地形 . 植生学会誌 28:19-37.
- 小林元男 . 1987. ムセンズグを猿払で採る . レポート日本の植物 32:110.
- 佐藤ひろみ . 2020. 根室にてムセンズグ *Carex livida* を見出す . 北方山草 37:65-68.
- 高橋英樹・岩崎 健 . 2007. 羅臼湖周辺の植物相調査 . 平成 18 年度 知床世界自然遺産地域 生態系モニタリング調査業務報告書 , pp.139-186. 財団法人知床財団 , 斜里 .



図2 宮舞町湿原のムセンズグ。中央に2株ある(矢印)、葉が特に粉白色を帯びるのがムセンズグ(2021年8月24日撮影)。